千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第28週 (7/8-7/14) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		28週	27週	26週	25週
	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市 注意報	千葉市 7/8-7/14 28週	千葉市 7/1-7/7 27週	千葉市 6/24-6/30 26週	千葉市 6/17-6/23 25週	千葉県 7/1-7/7 27週
小児科	RSウイルス感染症		7 0.39	7 0.39	0 0.00	10 0.56	39 0.29
	咽頭結膜熱		6 0.33	5 0.28	11 0.61	20 1.11	57 0.43
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		31 1.72	38 2.11	37 2.06	51 2.83	436 3.25
	感染性胃腸炎		94 5.22	95 5.28	106 5.89	97 5.39	588 4.39
	水痘		3 0.17	9 0.50	4 0.22	4 0.22	66 0.49
	手足口病	★★◎	382 21.22	245 13.61	115 6.39	98 5.44	1906 14.22
	伝染性紅斑		20 1.11	16 0.89	23 1.28	21 1.17	96 0.72
	突発性発しん		9 0.50	20 1.11	16 0.89	11 0.61	67 0.50
	ヘルパンギーナ	○	57 3.17	33 1.83	22 1.22	7 0.39	269 2.01
	流行性耳下腺炎		3 0.17	5 0.28	6 0.33	5 0.28	26 0.19
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ(高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く)		1 0.04	1 0.04	0 0.00	0 0.00	10 0.05
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	2 0.40	7 1.40	1 0.20	18 0.53
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00

★★:流行中　★:やや流行中　◎:増加　○:やや増加　→:変化なし　↓:やや減少　↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(24件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	IGRA検査	アメーバ赤痢	男性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	30歳代	IGRA検査	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	50歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	70歳代	病原体の検出	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	画像検査等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	90歳代	病原体の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	90歳代	病原体の分離･同定等	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
	女性	80歳代		百日咳	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の分離･同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定	百日咳	女性	60歳代	抗体の検出
				風しん	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性インフルエンザ菌感染症	男性	70歳代	病原体の分離･同定	－	－	－	－
				－	－	－	－

・第28週は、　結核8件（105）、腸管出血性大腸菌感染症2件（5）、アメーバ赤痢1件（4）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件（6）、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件（6）、梅毒1件（20）、百日咳9件（81）、風しん1件（37）の報告があった。

※　（）内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数　第28週のコメント

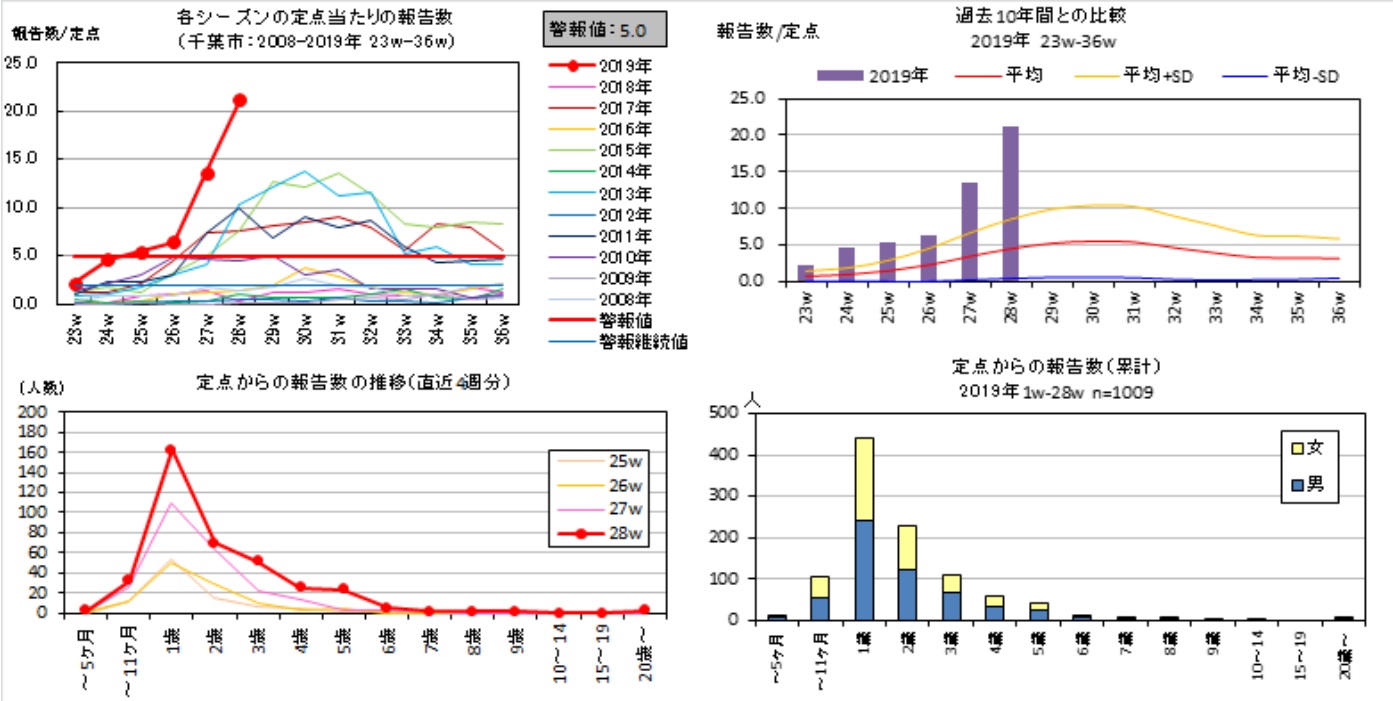
＜**手足口病**＞前週より更に増加し21.22となり、1995年以来過去25年間で最多となった。全区で流行発生警報開始基準値を上回っている。

＜**ヘルパンギーナ**＞前週より増加し、3.17となった。過去10年の同時期と比べると少なめだが、若葉区で急上昇し流行発生警報開始基準値を上回った。

■　トピック　■

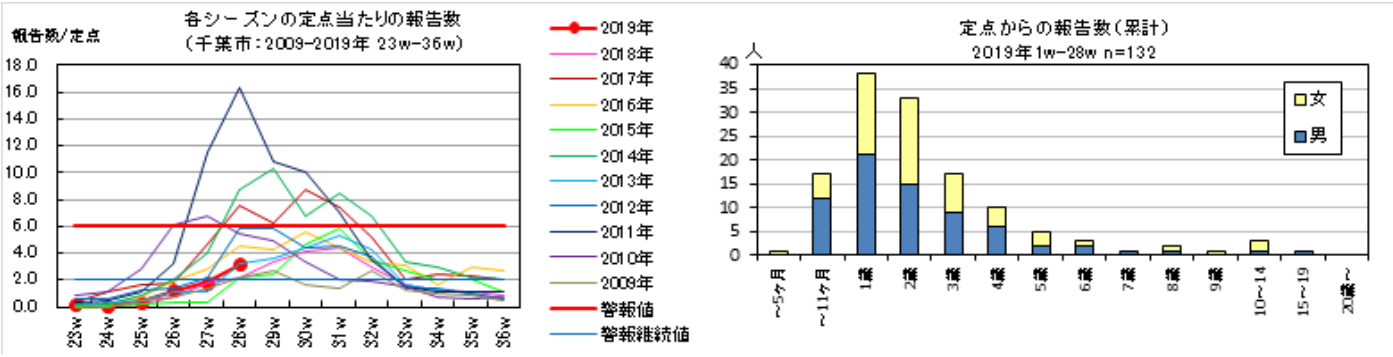
＜手足口病＞

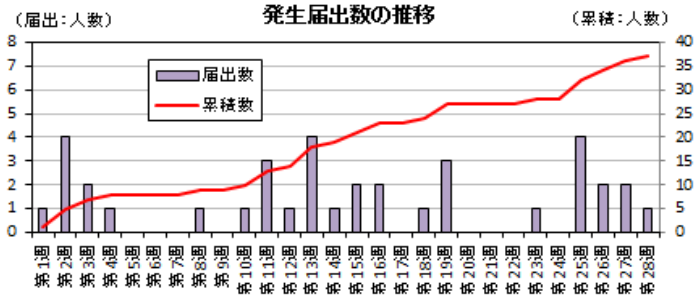
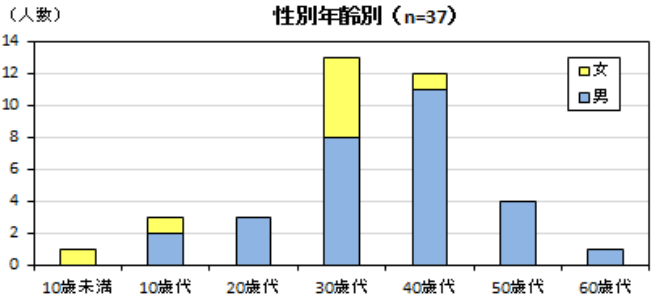
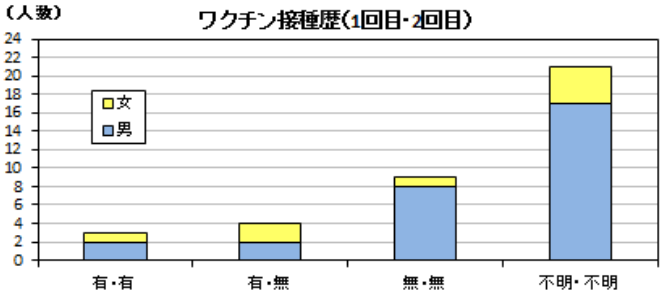
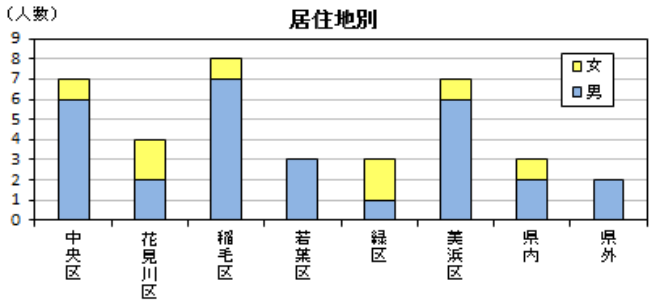
全国レベルの第27週の定点当たりの報告数は9.79となり、流行発生警報開始基準値（5.0/定点）を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多となりました。都道府県別では福井県、石川県、香川県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は14.22で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第28週は前週より更に急増し21.22となり、記録の残る1995年以来過去25年間で最多で、過去に例のない非常に大きな流行となっています。区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回っており中央区以外で増加、若葉区（44.0/定点）で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第28週までの累積報告数は1009件で、性別では男性が54.6%（551名）、女性が45.4%（458名）となっており、年齢階級別では1歳（43.8%：442名）、2歳（22.5%：227名）、3歳（10.6%：107名）の順で多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第27週の定点当たりの報告数は2.12となり、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では三重県、山口県、熊本県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.01で、全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第28週は前週より増加し3.17となり、過去10年の同時期と比べると少なめとなっていますが、若葉区（7.5/定点）で急増しており流行発生警報開始基準値（6.0/定点）を上回り、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第28週までの累積報告数は132件で、性別では男性が53.8%（71名）、女性が46.2%（61名）となっており、年齢階級別では1歳（28.8%：38名）、2歳（25.0%：33名）、6-11か月及び3歳（共に12.9%：17名）の順で多くなっています。



＜風しん＞

全国レベルの第25週の発生届累積数は1935件で、昨年の同時期と比べるとおよそ40倍となっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉市では第28週に1件の発生届があり、第25週以来4週連続で届出があり、2019年の累積数は37件となりました。性別では男性が78.4%（29名）、女性が21.6%（8名）となっており、年齢階級別では30歳代（35.1%：13名）、40歳代（32.4%：12名）、50歳代（10.8%：4名）の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の8割以上を占めています。